

オンデマンド印刷について

中西印刷株式会社

2010/12/1

高速大量印刷の落とし穴	1
オンデマンド印刷とは何か？	1
オンデマンド印刷の発注	2

高速大量印刷の落とし穴

過去 500 年間、印刷は高速化、大量化の道をまっすぐに進んできました。巷に氾濫する新聞や雑誌は、数百万部という単位で発行されているわけですが、これが週刊や日刊で出ているというのは実は大変なことです。通販カタログなどは、フルカラーでなおかつ百万単位での印刷がおこなわれています。こうしたことを可能にしたのは、一時間に 10 万枚を印刷するというような超高速印刷機のおかげです。

しかし、そのこととは裏腹に少数印刷は忘れられた存在になってしまいました。200 冊、300 冊といった部数の印刷は、たとえば、一時間に 10 万枚刷るような印刷機だと、300 部刷っても刷っている時間は、わずかに 10 秒です。にもかかわらず、印刷版の組付けや、刷りだしの調整に 10 万枚刷るときと同じだけの時間がかかります。これに、印刷版を作る手間までいければ、とても少数の印刷では引き合わないことがおわかりになるでしょう。印刷が高速大量化に突き進めば進むほど少数印刷は忘れられた存在になってしまうのです。

オンデマンド印刷とは何か？

こうした少数印刷のために今注目されているのが、オンデマンド印刷です。オンデマンド印刷はまだ馴染みがない言葉かもしれません。オンデマンドは On Demand 「欲しいときに欲しいだけ」という意味です。オンデマンド印刷はこれまでの印刷技法とは全く逆に、少数数であればあるほど強みを発揮し、印刷時間もすくなくてすむという新時代の印刷技法です。

どうすればこういうことが可能なのでしょうか。ここで、コンピュータのプリンタを思い出してください。プリンタとはいみじくも印刷機という意味です。普通、コンピュータのプリンタでは一部しか印刷しません。会議で多数必要なら、そこからコピーを取るでしょう。が、たいていのワープロソフトでは、標準で何部でも刷れるオプションがついているはず。ここなのです。コピーを使わず、ワープロでそのまま必要枚数を刷ってしまうというのが、オンデマンド印刷の基本です。これだと、コンピュータにためておいたデータを必要な時に必要な部数刷ればよいことになります。

もちろん、家庭用のインクジェットプリンタでこんなことはされないとはいえません。いくら少数とは言っても、10 枚 20 枚ならいざ知らず、100 枚 200 枚となってくると、時間もかかります。ま

た印刷と同じような精密両面印刷ができるわけでもありません。そこで、そうした需要にこたえるための速くて、きれいで、両面が印刷できるプリンタが登場してきました。ここまでくるともうプリンタとはいいません。オンデマンド印刷機です。

たとえば、当社で導入した XEROX Color1000Press。ながらくオンデマンド機はモノクロのみでしたが、これはカラーです。印字品質は従来のオフセット印刷と遜色ありません。以前オンデマンド印刷の弱点とされた写真品質も急速に改善し、オフセット印刷とかわりないレベルにきています。事例については、中西印刷にお問い合わせください。お見せいたします。

下の実機の写真を見てください。コピー機は進化して印刷機となりました。



オンデマンド印刷の発注

オンデマンド印刷は、おそらく 21 世紀を通じて主流になっていくだろう技術ですが、これを実行するためには、ただ一つ重要な条件があります。それは、オンデマンド印刷機がコンピュータのプリンタそのものなのですから、当たり前ですが、データがなにもかもコンピュータで作られていなければならないということです。なーんだそんなことと思われるでしょうが、実は、これが意外にむずかしい。ノンブル（丁数）は？ 図は？ 写真は？ 糊とはさみで貼り込んでいませんか。あるいは印刷会社にたのんでしまっていないですか。オンデマンド印刷に切り貼りはありえません。したがって、入稿は、CD でもオンラインでもかまいませんが、電子媒体に限ります。データ形式は現在では PDF フォーマットが便利ですが WORD でも一太郎でもかまいません。すこし面倒でしょうが、この条件さえ守っていただければ、印刷の新たな世界が待っています。

もちろん、手書き原稿でいただいて、当社で電子媒体につくりあげることが可能です。もし、お金をすこしお持ちならば、中西印刷にご依頼いただければ手書き原稿から電子データに作り上げることはもちろん今までの印刷とかわりません。